

令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立城西高等学校神山校

本校の教育基本方針

- ① 「知徳体」の調和のとれた人間性豊かで自主性、創造性に富み可能性を拓く生徒を育成する。
- ② 国際的な視野をもち地域社会の発展のため積極的に行動できる次代を担う生徒を育成する。
- ③ 確かな学力を身につけ、これからの中社会をたくましく生き抜き未来を創造する生徒を育成する。

【重点課題1】「伝える力」「協働する力」「深める力」の育成

基礎基本を重視した教科指導を徹底するとともに、体験学習やICTを活用した授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

【重点課題2】「神山モデルの確立」

生徒一人一人を大切にした教育活動を通して、基本的生活習慣の定着に努めるとともに、豊かな人権感覚や思いやりの心で正しい判断と行動ができる生徒を育成する。

【重点課題3】「地域人材を育成するキャリア教育の実践」

個々の多様な能力・適性・関心等に応じたきめ細かい進路指導を推進する中で、社会的・職業的自立に必要な能力と態度を育成し、生徒の進路実現を図る。

【重点課題4】「防災・環境教育の充実」

地域や学校の環境美化活動を主体的に行動できる態度を育て、安全・安心な環境整備に努め、「自助」「共助」の防災活動ができる地域防災を担う生徒を育成する。

【重点課題5】「地域で学び 地域と育つ神山校の推進」

「地域との協働による高校教育改革推進事業」を継承し、「神山創造学」を中心に、農業教育を通して地域に根ざした取り組みを積極的に行い、地域の中で主体的に行動できる実践力を育成する。

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価	評定	総合評価	
1 「伝える力」「協働する力」「深める力」の育成	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。</p> <p>(2) 神山校で育てたい力の「伝える力」「協働する力」「深める力」を全教科の評価の観点にすえ、生徒が主体的に学習に取り組む力を養う。</p> <p>(3) 図書に触れる読書活動を充実させ、豊かな感性を育む。</p> <p>(4) G I G Aスクール構想実現に向けて、ICTの有効的な活用を目指し、1人1台端末を用いて個別最適化学習を行う。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基本的な学習態度の向上に向けた取組を推進する。</p> <p>② 各教科ごとに、評価を行うための評価基準を作成し、客観的で一貫性のある評価を行うことで、生徒のやる気に結びつける。</p> <p>③ 図書室の有効的な活用を推進する。</p> <p>④ 各教科におけるICTを効果的に活用した授業を探究する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 「高校生のための学びの基礎診断」に認定された測定ツールの利活用 【(1・2年生)1回目より3回目の偏差値が上昇した生徒の割合60%以上】</p> <p>②-1 育てたい3つの力を根底に据え、職員全体が同じ方向を向いて教育活動を行うための研修会の実施 【教職員研修会年間6回以上】</p> <p>②-2 教員相互による授業力向上に向け授業公開週間の実施 【全教員の授業見学6回以上】</p> <p>③-1 朝の読書週間の実施 【各学期ごとに実施】</p> <p>③-2 図書室の有効利用 【生徒への貸出一人5冊以上】</p> <p>④ ICT活用に向けての研修会の実施 【教職員研修会年間3回以上】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 1・2年生は年3回、3年生は年間1回基礎力診断テストを実施し、自身の基礎学力の定着を確認する。</p> <p>①-2 小テストにより、生徒の理解度やつまづきを早期に把握し、繰り返し演習等を行うことにより、基礎学力の向上及び定着を図る。</p> <p>②-1 新学習指導要領の実施に伴う新3年生の年間指導計画および評価基準を作成し、学期末および単元終了時に評価を行う。また、全年において、神山校で育てたい3つの力「伝える力」「協働する力」「深める力」を評価の観点に据えた年間指導計画を作成する。</p> <p>②-2 教科等を超えて長期的に育成する資質・能力に関するものを作成し、評価する。</p> <p>③-1 朝のホームルームの時間を活用し、1回10分程度の読書時間を設定する。</p> <p>③-2 購入図書の希望調査を行うなど、興味・関心の高い図書を購入する。</p> <p>④ 授業公開週間にICTを用いた授業を実施し、指導力向上に取り組む。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 基礎力診断テストの実施 【(1・2年生)1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒の割合42.0%】</p> <p>②-1 研修会を実施 【教職員研修会年間6回実施】</p> <p>②-2 各学期に授業公開週間を設定 【全教員の6回以上の授業見学率73.6%】</p> <p>③-1 朝の読書週間の実施 【3回実施】</p> <p>③-2 図書室の有効利用 【生徒への貸出一人2.8冊】</p> <p>④ ICT活用に向けての研修会の実施 【教職員研修会年間3回実施】</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 基础学力を確認するテストを1・2年生は年間3回、3年生は1回実施した。</p> <p>①-2 小テストの実施に際して、家庭で事前学習を必ず行うよう指導するとともに、基礎的問題の演習時間を多くとることにより、基礎学力の定着に努めた。</p> <p>②-1 新3年生の年間指導計画及び評価基準を作成し、学期末および単元終了時に評価を行った。また、全年において、神山校で育てたい3つの力「伝える力」「協働する力」「深める力」を評価の観点に据えた年間指導計画を作成した。</p> <p>②-2 各学期に1回ずつ授業公開週間を設け、教員相互の授業力向上に努めた。教科等を超えて長期的に育成する資質・能力に関するものを作成し、評価するための研修を行ったが、作成には至っていない。</p> <p>③-1 普段はあまり読書をする習慣がない生徒も、事前に図書室で本を借りる時間を作ったり、自宅から本を持ってくることを促したりすることで、本と向き合う時間を作ることができた。</p> <p>③-2 希望図書の全てを購入することはできなかったが、小説や食・農業等の関する図書を購入した。</p> <p>④ 定期的にG I G Aスクールセンターに来校してもらい、教材研究やソフトウェアの活用についてアドバイスを受け、ICTを活用した授業の指導力向上に取り組んだ。4・9・12月に教職員研修会を実施した。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○ 学習指導計画の評価基準に「三つの力」の観点を取り入れたことを評価するとともに、今後のさらなる改善を期待する。</p> <p>○ 読書週間の学習効果を高めるために、週間終了後にレポートや感想を提出するなど、それを表現する時間が必要ではないか。</p> <p>○ 図書室のリニューアルにより、生徒が本を手に取りやすい環境になった。生徒がより図書室へ足を運ぶ機会を増やすために、図書室の運営について生徒も含めて検討を行ってはどうか。</p> <p>○ 評価におけるルーブックの活用について、校内研修を行う。</p> <p>○ 今年度は、図書室の改修工事のため、2学期の中頃まで図書室を利用することことができなかった。来年度は、より図書室を利用したくなるように蔵書の配置等を工夫していく。</p> <p>○ ICTを用いた授業のさらなる指導力向上を目指すとともに、急な休校等にも対応できるICTの有効的な活用についても今後探求していく。</p>

「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかつた

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方法																																																	
		評価指標と活動計画	評価	評定	学校関係者の意見																																																		
2 神山モデルの確立	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 挨拶の励行や時間を守るなど基本的生活習慣の確立を図る。また、規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につける生徒指導を推進する。</p> <p>(2) 交通マナー向上させ、交通事故を防止するとともに、公共交通機関の乗車マナーを考えることができる生徒を育てる。</p> <p>(3) 他者を思いやる心を育み、自尊感情を育て、いじめを防止する。</p> <p>(4) 個々の特性に応じた支援体制を推進する。</p> <p>(5) 町内行事や地域環境、社会生活で学び、気づきの発見や郷土愛を高める活動を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基本的生活習慣の確立する。</p> <p>② 交通ルールの遵守と、交通マナー向上させた安全教育の確立する。</p> <p>③ 「自分の気持ちを伝える」「相手の意見を聞く」などの対話力を養う。(道徳教育)。</p> <p>④ 教職員間での特別支援体制の確立及び関係機関との連携を推進する。</p> <p>⑤ 町役場、関係機関と連携し、地域や郷土を愛する活動を生み出す。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①-1 頭髪・服装検査の実施及び違反者への改善指導の実施 【違反者率10%未満】</td> <td>①-1 毎月1回以上の頭髪・服装検査を実施 【違反者率10%未満達成】</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>①-2 全校集会の実施 【毎月実施】</td> <td>①-2 全校集会の実施 【毎月実施】</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>①-3 情報モラル向上のため、関係機関と連携した組織的な取組 【年間3回以上】</td> <td>①-3 防犯教室を、全校生徒を対象に1学期当初に実施 【1回実施】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②-1 神農クラブ、交通委員による交通マナーアップの実施 【毎月2回】</td> <td>②-1 交通マナーアップの実施 【毎月1回程度実施】</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>②-2 毎月20日を学校安全日とし、登校指導の実施。【毎月1回以上】</td> <td>②-2 登校指導の実施 【毎月1回以上実施】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間5回以上】</td> <td>③-1 人権ホームルーム活動の実施 【各学年5回実施】</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回以上】</td> <td>③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回実施】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 担任、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員が協力して教育相談体制を構築</td> <td>④-1 関係する教職員と今後の対策について協議を必要に応じて随時実施した。</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>④-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上 【理解度・満足度90%以上】</td> <td>④-2 特別支援教育研修の実施 【理解度・満足度90%】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 町内行事や孫の手活動の積極的な参加と活動</td> <td>⑤ 有志の生徒、寮生や孫の手メンバー生徒は、意欲的に活動した。</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①-1 每月全校集会を実施し、全職員で支援・指導を行う。</td> <td>①-1 全職員共通理解のもと、生徒の支援・指導を実施し、改善を図っている。</td> </tr> <tr> <td>①-2 スマホ、情報端末の使用におけるマナーアップ指導と防犯教室を開催する。</td> <td>①-2 警察署と連携し、防犯教室を実施した。携帯電話等のマナー向上のため、全校集会で周知している。</td> </tr> <tr> <td>②-1 学校安全日に自転車、原付利用者の車両点検の実施する。</td> <td>②-1 毎月20日に立哨指導を実施し、交通安全に役立てることができた。</td> </tr> <tr> <td>②-2 関係機関と連携し、講習会を実施する。</td> <td>②-2 薬物乱用防止教室、原付免許実技講習会等、関係機関と連携し実施できた。</td> </tr> <tr> <td>③-1 生徒の実態に即した内容を扱うとともに、事例検討等の体験活動を取り入れる。</td> <td>③-1 生徒の様子や状況を教職員間で共有し、必要に応じてホームルームや学年集会等を実施することで、相互理解につながるように務めた。</td> </tr> <tr> <td>③-2 研修会等で得た知識・情報を、校内で報告し合い、他の教職員と共有する。</td> <td>③-2 研修会等での資料等を教職員間で回覧したり、学年等での話合いで活用したりすることで生徒に還元した。</td> </tr> <tr> <td>④-1 教育相談室の環境を整え、キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。</td> <td>④-1 キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。</td> </tr> <tr> <td>④-2 個々の特性について教職員間で共有し、支援を実施する。</td> <td>④-2 支援が必要な生徒に対しては、キャリアアドバイザーと連携し、全教職員が共通理解のもとで対応している。</td> </tr> <tr> <td>⑤ 町役場と連携し、町内行事に参加。</td> <td>⑤ 防災活動、町内行事に参加した。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	①-1 頭髪・服装検査の実施及び違反者への改善指導の実施 【違反者率10%未満】	①-1 毎月1回以上の頭髪・服装検査を実施 【違反者率10%未満達成】	B	①-2 全校集会の実施 【毎月実施】	①-2 全校集会の実施 【毎月実施】	B	①-3 情報モラル向上のため、関係機関と連携した組織的な取組 【年間3回以上】	①-3 防犯教室を、全校生徒を対象に1学期当初に実施 【1回実施】		②-1 神農クラブ、交通委員による交通マナーアップの実施 【毎月2回】	②-1 交通マナーアップの実施 【毎月1回程度実施】	B	②-2 毎月20日を学校安全日とし、登校指導の実施。【毎月1回以上】	②-2 登校指導の実施 【毎月1回以上実施】		③-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間5回以上】	③-1 人権ホームルーム活動の実施 【各学年5回実施】	A	③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回以上】	③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回実施】		④-1 担任、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員が協力して教育相談体制を構築	④-1 関係する教職員と今後の対策について協議を必要に応じて随時実施した。	A	④-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上 【理解度・満足度90%以上】	④-2 特別支援教育研修の実施 【理解度・満足度90%】		⑤ 町内行事や孫の手活動の積極的な参加と活動	⑤ 有志の生徒、寮生や孫の手メンバー生徒は、意欲的に活動した。	B	活動計画	活動計画の実施状況	①-1 每月全校集会を実施し、全職員で支援・指導を行う。	①-1 全職員共通理解のもと、生徒の支援・指導を実施し、改善を図っている。	①-2 スマホ、情報端末の使用におけるマナーアップ指導と防犯教室を開催する。	①-2 警察署と連携し、防犯教室を実施した。携帯電話等のマナー向上のため、全校集会で周知している。	②-1 学校安全日に自転車、原付利用者の車両点検の実施する。	②-1 毎月20日に立哨指導を実施し、交通安全に役立てることができた。	②-2 関係機関と連携し、講習会を実施する。	②-2 薬物乱用防止教室、原付免許実技講習会等、関係機関と連携し実施できた。	③-1 生徒の実態に即した内容を扱うとともに、事例検討等の体験活動を取り入れる。	③-1 生徒の様子や状況を教職員間で共有し、必要に応じてホームルームや学年集会等を実施することで、相互理解につながるように務めた。	③-2 研修会等で得た知識・情報を、校内で報告し合い、他の教職員と共有する。	③-2 研修会等での資料等を教職員間で回覧したり、学年等での話合いで活用したりすることで生徒に還元した。	④-1 教育相談室の環境を整え、キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。	④-1 キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。	④-2 個々の特性について教職員間で共有し、支援を実施する。	④-2 支援が必要な生徒に対しては、キャリアアドバイザーと連携し、全教職員が共通理解のもとで対応している。	⑤ 町役場と連携し、町内行事に参加。	⑤ 防災活動、町内行事に参加した。
評価指標	評価指標の達成度	評定																																																					
①-1 頭髪・服装検査の実施及び違反者への改善指導の実施 【違反者率10%未満】	①-1 毎月1回以上の頭髪・服装検査を実施 【違反者率10%未満達成】	B																																																					
①-2 全校集会の実施 【毎月実施】	①-2 全校集会の実施 【毎月実施】	B																																																					
①-3 情報モラル向上のため、関係機関と連携した組織的な取組 【年間3回以上】	①-3 防犯教室を、全校生徒を対象に1学期当初に実施 【1回実施】																																																						
②-1 神農クラブ、交通委員による交通マナーアップの実施 【毎月2回】	②-1 交通マナーアップの実施 【毎月1回程度実施】	B																																																					
②-2 毎月20日を学校安全日とし、登校指導の実施。【毎月1回以上】	②-2 登校指導の実施 【毎月1回以上実施】																																																						
③-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間5回以上】	③-1 人権ホームルーム活動の実施 【各学年5回実施】	A																																																					
③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回以上】	③-2 教職員人権研修の実施 【年間3回実施】																																																						
④-1 担任、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員が協力して教育相談体制を構築	④-1 関係する教職員と今後の対策について協議を必要に応じて随時実施した。	A																																																					
④-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上 【理解度・満足度90%以上】	④-2 特別支援教育研修の実施 【理解度・満足度90%】																																																						
⑤ 町内行事や孫の手活動の積極的な参加と活動	⑤ 有志の生徒、寮生や孫の手メンバー生徒は、意欲的に活動した。	B																																																					
活動計画	活動計画の実施状況																																																						
①-1 每月全校集会を実施し、全職員で支援・指導を行う。	①-1 全職員共通理解のもと、生徒の支援・指導を実施し、改善を図っている。																																																						
①-2 スマホ、情報端末の使用におけるマナーアップ指導と防犯教室を開催する。	①-2 警察署と連携し、防犯教室を実施した。携帯電話等のマナー向上のため、全校集会で周知している。																																																						
②-1 学校安全日に自転車、原付利用者の車両点検の実施する。	②-1 毎月20日に立哨指導を実施し、交通安全に役立てることができた。																																																						
②-2 関係機関と連携し、講習会を実施する。	②-2 薬物乱用防止教室、原付免許実技講習会等、関係機関と連携し実施できた。																																																						
③-1 生徒の実態に即した内容を扱うとともに、事例検討等の体験活動を取り入れる。	③-1 生徒の様子や状況を教職員間で共有し、必要に応じてホームルームや学年集会等を実施することで、相互理解につながるように務めた。																																																						
③-2 研修会等で得た知識・情報を、校内で報告し合い、他の教職員と共有する。	③-2 研修会等での資料等を教職員間で回覧したり、学年等での話合いで活用したりすることで生徒に還元した。																																																						
④-1 教育相談室の環境を整え、キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。	④-1 キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。																																																						
④-2 個々の特性について教職員間で共有し、支援を実施する。	④-2 支援が必要な生徒に対しては、キャリアアドバイザーと連携し、全教職員が共通理解のもとで対応している。																																																						
⑤ 町役場と連携し、町内行事に参加。	⑤ 防災活動、町内行事に参加した。																																																						

「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかった

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価	評定	総合評価	
3 地域人材を育成するキャリア教育の実践	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) キャリア教育を推進し、進路指導の充実を図り、個々の多様な能力・適性・関心等に応じた進路を実現させる。</p> <p>(2) 主権者として社会に生きる自覚を高める主権者教育を推進する。</p> <p>(3) 職業教育を推進し、専門的な知識や技術を習得させる。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 個々の生徒の希望に応じ、十分なコミュニケーションを図り望ましい勤労観や職業観を育成する。</p> <p>② 模擬授業などの体験を通じた学習や、地域との連携した取組を推進する。</p> <p>③ 各種資格取得の奨励と取得支援のための補習の実施により、合格率の向上を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 町をフィールドにした職業体験の実施 【満足度80%以上】</p> <p>①-2 進路説明会等の実施 【年間3回以上】</p> <p>①-3 3年生就職希望者の応募前職場見学や職場体験への参加 【参加率100%】</p> <p>①-4 卒業時における進路実現 【進路決定率100%】</p> <p>①-5 生徒の希望に応じた企業訪問の実施 【生徒希望企業への訪問100%】</p> <p>② 主権者としての自覚の高揚 【様々な社会問題への関心や、主体的に考える意識が高まったと回答した生徒の割合70%以上】</p> <p>③ 資格取得の奨励 【3年生で3つ以上の資格の取得率70%以上】 【アグリマイスター認証5人以上】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 まちぐるみ仕事体験やインターンシップを積極的に推進する。</p> <p>①-2 職業理解に向けた進路ガイダンスを実施する。</p> <p>①-3 応募前職場見学や職場体験に積極的に参加させ、ミスマッチを防止する。</p> <p>①-4 希望する進路が実現できるよう、面談・進路集会・勉強会を実施する。</p> <p>①-5 求人開拓を推進する。</p> <p>② 大学や専門機関と連携した主権者教育の出前講座の実施や、ホールーム活動や学校行事の充実を図る。</p> <p>③ 教科指導や時間外授業（補習）を充実させ、検定合格者を増やす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 町内での職場体験、インターンシップに参加 【満足度88%】</p> <p>①-2 関連企業や大学等と連携し、進路に関するガイダンスを実施 【年間7回】</p> <p>①-3 応募前職場見学や職場体験に参加 【参加率100%】</p> <p>①-4 卒業生26名の進路決定 【進路決定率96%】</p> <p>①-5 生徒の希望する企業への訪問 【生徒希望企業への訪問100%】</p> <p>② 専門機関と連携した講演会等の実施 【様々な社会問題への関心や、主体的に考える意識が高まったと回答した生徒の割合80%】</p> <p>③ 資格取得割合 【3年生で3つ以上の資格の取得率81%】 【アグリマイスター認証2人】</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 まちぐるみ仕事体験に1年生24名、農業インターンシップに1年2名、2年生1名が參加した。</p> <p>①-2 農林業関連の職業理解に向けた進路ガイダンスを2回実施した。</p> <p>①-3 就職希望者全員が応募前職場見学や職場体験に參加した。</p> <p>①-4 面談（個人面談・三者面談）や進路集会を実施し、個別進路に応じた進路指導を展開できた。</p> <p>①-5 生徒の希望に応じた求人開拓を実施し、内定に結びつけた。</p> <p>② 大学教員による主権者教育出前講座、年金事務所による年金セミナー、税務署と税理士による租税教室などを実施し、主権者としての自覚を高めることができた。</p> <p>③ 2学期以降の1・2年生の補習日数が行事等もあり十分確保できなかった。</p>	A A B	<p>A （所見）</p> <p>神山創造学を通して、地域と連携しながら職場体験やインターンシップを実施できた。農業インターンシップに3名が希望し参加したので、今後もキャリア教育を意識した取組を継続したい。生徒の進路希望を教員間で共有し、連携することで適正に把握でき、生徒の希望・要望にあった進路指導や企業開拓ができた。</p> <p>資格取得率は思うように伸びていないが、様々な資格に自主的に挑戦する生徒も少しずつ増えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材を育成するキャリア教育の実施に向けて、より具体的な目標を設定することが重要である。学年ごとに身につけるべき目標を明確に定めてみてはどうか。 ○ アグリマイスター認証制度の最高位であるプラチナランクを2年生での取得は大きな成果であり、さらに積極的にアピールするべき。 ○ インターンシップに参加した生徒の事後指導や振り返りなどに複数の教員で対応するようにしていきたい。 ○ 生徒の資格取得や幅広い進路選択につながる補習講座や補習内容の再検討をしていきたい。

「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかつた

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方法
			評定	総合評価		
4 防災・環境教育の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) SDGsの「つくる責任・つかう責任」や「住み続けるまちづくり」を推進し、地域や学校の環境に配慮する。</p> <p>(2) 感染症対策を徹底し、安全・安心な学習環境を整備する。</p> <p>(3) 関係機関と連携し、「自助」「互助」の防災活動と命を守る防災意識の高揚を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 節電・節水・ゴミの分別を徹底し、校内の美化活動を行うとともに、環境調査を実施する。</p> <p>② 基本的な感染予防対策を徹底し、感染予防に努める。</p> <p>③ 安全教育の充実を図り、効果的な防災教育を実証し、適切な防災避難訓練の企画と展開を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 リサイクルやリユースからゴミの減量に努め、環境に与える影響を考察 【ゴミ分別率100%】</p> <p>①-2 地域の清掃活動に生徒・教職員で活動 【各クラス年間2回以上】</p> <p>②-1 基本的な感染予防対策の定着 【口頭指導や啓発文書配布】</p> <p>②-2 日頃から清潔な空間を保ち、適宜、感染予防対策に努める。</p> <p>③-1 災害・火災に対する避難・消防訓練の実施や学校防災クラブの活動展開 【消防署員との合同練習1回以上】 【災害に対する訓練年間3回以上】 【地域と連携した活動1回以上】</p> <p>③-2 高校生の防災士の育成 【防災士合格者1名以上】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 各教室に啓発文書等を掲示し節電・節水・分別ゴミの減量に取り組む。</p> <p>①-2 ゴミゼロキャンペーン・アドプト事業・バス停清掃と、校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整える。</p> <p>②-1 日々の生活の中で健康観察、手洗い等の手指衛生、換気の励行を促す。</p> <p>②-2 十分な換気を行い、汚染箇所は適宜消毒を行う。</p> <p>③-1 台風・積雪時期に事前備蓄点検を実施する。</p> <p>③-2 避難訓練を実施し、チェックシートを作成し、評価と分析、改善を行う。</p> <p>③-3 地域・防災クラブが連携し、炊きだし体験を実施する。</p> <p>③-4 AEDを使った心肺蘇生法研修を全生徒・教職員で実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 毎日の清掃を通じたゴミの分別 【ゴミ分別率90%】</p> <p>①-2 地域での活動 【ゴミゼロキャンペーン年間1回】 【アドプト事業年間9回】 【バス停清掃年間20回】</p> <p>②-1 感染予防対策を徹底 【学級閉鎖等0件】</p> <p>②-2 ホームルーム、特別教室等において、休み時間等に適宜換気を実施</p> <p>③-1 避難・消防訓練 【消防署員との訓練1回】 【災害に対する訓練3回】 【地域(役場)と連携した活動1回】</p> <p>③-2 令和5年度高校生防災士の育成 【防災士合格者1名】</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 昨年度に各教室に分別用のゴミ箱を増やし、分別が細かくできているが、生活ゴミの減少まで至っていない。</p> <p>①-2 ゴミゼロキャンペーン・アドプト事業等を計画的に実施できた。毎月、校内教室美化コンテストを実施することで、教室の環境が整えられた。</p> <p>②-1 担任からの口頭指導や保健だより等を通して、手洗い等の手指衛生と換気を励行した。</p> <p>②-2 休憩時間換気の徹底に努めた。2月に実施した空気検査では基準値を満たした。</p> <p>③-1 台風・積雪時期に、事前の備蓄品(2日分)の点検と災害対策を実施した。</p> <p>③-2 定期的に避難訓練を実施し、防災クラブの生徒が主体となって避難訓練を実施した。全国一斉情報伝達を利用し、校内での避難訓練を3回実施した。</p> <p>③-3 役場や地域と連携し防災避難所の設営体験を実施した。</p> <p>③-4 3月19日(水)に実施予定</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 重点目標について、より具体的な評価基準を示してよいのではないか。</p> <p>○ ③-2について、チェックシートの結果は数値を公開することで、評価分析を行ってはどうか。</p> <p>○ すだちでJGAP認証を取得していることから、環境に配慮した農業が実践されていることが分かる。この実績を具体的な評価基準に組み込んではどうか。</p> <p>○ 今年度も「ふるさと大好き！地域防災推進事業」を継続している。防災研修にも積極的に参加し、意識を高められ、高校生防災士に1名が合格することができた。</p> <p>日々の指導により、健康観察や手指衛生、喚起の励行ができた。特に喚起については基準値を満たすことができ、感染症の予防となつた。</p> <p>防災クラブのメンバーと地域や役場、関係機関と連携し、防災避難所の運営や消防訓練、炊き出し訓練等に参加した事により、地域の防災意識が高まつた。</p>	<p>○ ゴミの分別や、生活ゴミを減少するための対策を検討する。</p> <p>○ 積極的な防災活動を通して、地域で活躍できる行動力を持った生徒を育成するとともに、防災土を中心とした防災クラブの活動を活性化させ、地域と連携した防災活動を実施する。</p> <p>○ 来年度も引き続き、手指衛生・換気をはじめとした感染予防対策の指導に務めていく。</p> <p>○ 高校生防災士資格試験の合格者を増やすための勉強会を実施する。</p> <p>○ 教室美化コンテストを継続し、生徒の環境美化に対する意識を高める。</p>

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方法		
			評定	総合評価				
5 「地域で学び 地域と育つ神山校」の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 地域で学び地域と育つ神山校を推進する。</p> <p>(2) 「まめのくぼプロジェクト」を推進し、発展させる。</p> <p>(3) 専門的な知識・技術を習得させる。</p> <p>(4) 神山校での専門科目に関する学びを発信する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 町内をフィールドに、町民の方々を講師に教育活動を推進する。</p> <p>② 地域の休耕地「まめのくぼ」をフィールドにした学習活動を深化させる。</p> <p>③ より専門的で高度な学びを実現する。</p> <p>④ 学習成果を県内外に向けて積極的に発信する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 神山町全体を教材に、活動をより深化させ、生徒の満足度を充実 【満足度80%以上】</p> <p>②-1 棚田の役割について、環境と食農の両面から学び、成果を報告</p> <p>②-2 間伐材の活用と、関係機関と連携した加工品の商品の開発 【2品目以上】</p> <p>③ 外部講師を招へいし、より専門的な技術の習得に向けた講習会の実施 【2分野以上】</p> <p>④-1 様々なイベントに出展し、本校での取組を発信</p> <p>④-2 特色ある教育実践を、全国または県内の広報誌等に掲載 【年間4回以上】</p> <p>活動計画</p> <p>① 神山創造学Ⅰにおいて、神山町内のフィールドワーク、しごと体験、聞き書きなどを実施する。</p> <p>② 「まめのくぼ」の人工林で間伐を行い、積み木やキーホルダーを作製。企業や障がい者授産施設と連携を図り、商品開発を行う。</p> <p>③ 林業アカデミーや神山町と連携し高度な林業実習を実施、また職業能力開発協会から講師を招き、造園技術を向上させる。</p> <p>④ 地元タウン誌や新聞などに積極的に活動内容を発信。関係機関と連携し全国規模の雑誌や情報誌の取材も積極的に受諾する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 神山創造学や課題研究では主体的に生徒が活動している。 【満足度82%】</p> <p>②-1 空石積みの技術を習得し、石積み甲子園に出場、学校農業クラブの意見発表やプロジェクト発表で活動の成果を発表した。 【石積み甲子園：準優勝】 【学校農業クラブプロジェクト発表会 四国大会：優秀賞】</p> <p>②-2 間伐材の活用や加工品の商品 【5品目】</p> <p>③ 講習会の実施 【森林組合：高性能林業機械研修】 【造園業協会：庭園施工管理等】 【石積み学校：空石積みの技術習得】 【林業アカデミー：オープンキャンパス】 【調理：和洋菓子やイタリア料理】 【伝統技術：和綿・藍染め体験】</p> <p>④-1 県内外でのイベントにおいて、販売活動を通して、本校の活動について、発信した。</p> <p>④-2 教育活動内容や生徒の学習成果など新聞等に数多く掲載された。 【徳島新聞】【愛媛新聞】【神山町広報誌】 【YouTube】【テレビトクシマ】他</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 入学後すぐに宿泊を伴う体験活動が実施でき、フィールドワーク等を通して、入学当初から神山町について知ることができた。</p> <p>② 「まめのくぼ」の間伐材は薪として販売し、地域に還元している。また、いたの事業所あぜびと連携し、エシカルクッキーの販売、リーベフラウと共同開発でウインナーソーセージ。他、スダチ胡椒、そば麵など多くの商品開発を行った。</p> <p>③ 林業における機械化の進行を体感できた。林業アカデミーのオープンキャンパスに1年生全員が参加し、林業に対する知識や技術を深めた。高校生を対象に林業就業促進現地活動を実施し、後継者育成に取り組んだ。とくしま植物園の庭園を管理実習などで、造園技術を向上させることができた。</p> <p>④ HANASAKA祭り、エコプロなど東京で販売や活動報告を実施することで、新聞に掲載された。ローカルSDGs四国では審査員特別賞を受賞するなど、本校の取組を全国に向けて発信することができている。</p>	A	A	<p>(所見)</p> <p>町内の方に多くの活動に対する協力をいただき、神山創造学を楽しみながら学んでいる生徒の姿から町内での活動を深めることができている。神山町に興味・関心を持って取り組んでいる生徒が増えている。</p> <p>「まめのくぼ」での有機JAS認証、とくしま生物多様性認証、スダチのJGAP認証、徳島商品ブランド認証などの取得に向けて取り組み、本校の魅力をPRすることができた。</p> <p>関連企業と連携した加工商品を開発することで、安定した加工商品を提供することができた。</p> <p>県内外のイベントに参加することで、全国に向けて積極的に発信することができた。本校の取組をPRすることができ、「まめのくぼ」をフィールドにした循環型農業や環境保全など多角的に学ぶことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点課題と重点目標に重なりが見受けられる。「まめのくぼ」は本校独自の取り組みであり、学びの重点項目の一つでもあるが、学校が設定したグランドデザインの重点項目に合わせ、まめのくぼ以外の項目を追加はどうか。 ○ 本校に限らず、徳島県全体で生徒の定員割れが発生している状況ではあるが、中学校や保護者、生徒へのより効果的で具体的なPR方法を検討してほしい。 ○ すだちでのJGAP認証は、費用面や申請手続きなどで大変な部分もあるが、学校独自の取り組みとしてぜひ継続していくことを願う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神山創造学・課題研究を中心、「伝える」「協働する」「深める」力が身に付いてきたが、生徒や学年によって意欲に差がある。生徒が主体的に探究できるように授業を展開する。 ○ 「まめのくぼ」での栽培管理や景観整備は確立されつつあるので、今後の方向性について考えていく必要がある。どのように「まめのくぼ」活用していくのか協議する。 ○ 高度で専門的な知識と技術の習得を継続していくことで、生徒の専門的技術の向上を目指したい。単発的な事業にならないように、関係機に実施していく。 ○ 全国に向けて本校の教育活動を発信していくために、積極的なPRや安定した予算の確保などが必要である。

「評定」の基準 A : 十分達成できた B : 概ね達成できた C : 達成できなかった